

# 人生の後半生に輝いた人

100歳時代と言われる一方で今コロナ感染症で沈みがちですが、振り返れば人生の後半に輝きを増し情熱を持ち続けた先輩が多くいます。人生の後半に元気を与えてくれる素晴らしい先輩を探してみました。

## 1. 葛飾北斎

人生の後半生に輝いた人の一番バッタは日本のみならず、海外でも高い評価を受けている偉大な浮世絵師、葛飾北斎である。



その人気は現代でも衰えず 1999年「LIFE」が特集したこの千年で最も重要な功績を残した世界の人物 100人に日本人で唯一名を連ねている。

6歳から絵に興味を持ち 19歳で浮世絵師、勝川春章に弟子入りした。それ以降は人生の全てを絵に捧げた。かれの辞書には引退の文字は見当たらない。

自然界の全てを対象に日本画から西洋画まで様々な技法を学び、その作品は変化に富んだものとなっている。

一方実生活は無頓着でいつも木綿の藍染を引っ掛けており、羽織などは着た事がない。ご飯は殆ど店屋物で、酒も飲まずタバコも吸わずたまの楽しみは大福餅を食べることだった。

お金には縁が無かったようで、金に困って雅号を売ってメシのタネにした。その為雅号を20回以上変えている。



北斎の作品は 1867 年のパリ万博博覧会をきっかけに西欧でも知れ渡りジャパニズムを引き起こした。

ゴッホやドガは北斎の作風に影響を受けた。また工芸家のガレや音楽家のドビュッシーなども北斎の版画に発想を得ている。

北斎が 63-71 歳の時発表した「富嶽 36 景」は江戸でも一大旋風を巻き起こした。つまり北斎がピークを迎えたのは晩年に入ってからと言える。



北斎は 73 歳で目を輝かせながら夢を語った、「73 歳でようやく少しは描けるようになった。それ故に 80 歳になれば腕はさらに上達し、90 歳ともなれば奥義を極め、百歳の時は神業になるだろう」と。

奥義を極め 90 歳で亡くなったが、現代の平均寿命をはるかに超える大往生であった。

## 2. 鑑真

人生の後半期に人生最大の転機が訪れた有名人は多々ありますが中でも次の人の人生は波乱に満ちています。

鑑真:奈良時代に日本に来た唐の僧侶、奈良時代既に仏教が伝わっていた、当時坊さんになるには認可制だったが、許可を得た坊さんは飲む買うなどで問題がおおかつた。

聖武天皇はなんとか坊さんの風紀を正す為には唐の高僧を招こうとなり、栄叡と普照を唐に派遣した。

しかし日本へ渡ろうと言う僧侶は見つからず 9 年の歳月がすぎました、ある時戒律の第一人者がいると聞いて揚州へ行き、大明寺の鑑真をたずねた。

鑑真は 56 歳、すでに名僧として広く名を知られていた。弟子達が 4 万人に上ったと言います。

説得の結果鑑真と弟子 21 人が日本へ行くことになり、日本行きを計画しました。

しかし当時は海外渡航は禁じられており、他の弟子の密告により逮捕され、栄叡と普照は4ヶ月に渡る獄中生活の末、日本に帰国することを条件にとりあえず釈放されました。

当時の航海技術では日本海を渡るのは大変危険であった。



鑑真の日本渡航の試みは 6 回されているが、3 回は密告で失敗している。61 歳の時の 5 回目では無事出航できたが、嵐に巻き込まれて半年の漂流の末海南島に着いた、その時栄叡が他界、鑑真は病から視力を失った。

しかし鑑真の熱意は失われず、753 年、66 歳の時 6 回目の挑戦の結果日本への渡航を果たす。

志してから 11 年経っていた。鑑真は坊さんが「女遊びを禁じる」「酒や賭け事はいけない」「肉を食べてはだめ」などの戒律をはじめて定めることによって、正しい

い仏教を日本に定着することが出来た。

奈良時代に作られた鑑真和上坐像は日本最古の肖像彫刻といわれ、当時神や仏の像はあったが人間の像はありませんでした。鑑真像は生前に弟子によって作られた為、目鼻立ちはそっくりに作られたそうです。

### 3.伊能忠敬

3 番手に登場する後半生に活躍した人は伊能忠敬さんである。

17 年をかけて、日本中を歩いて測定し、現代でも参考にされる程正確な日本地図を作成したのは伊能忠敬の 56 歳からの挑戦だった。

18歳で酒屋などの商売をしている伊能家(現在の千葉県)に婿入りし、上手いかなくなった事業を立て直し、50歳で息子に家督を譲って隠居生活に入った。



翌年江戸に出て、新進の天文学者高橋至時入門し、「天文」と「暦学」の勉強をはじめた。早速自宅に観測所を作り、太陽や恒星の観測をはじめた。

毎日星の動きを観測する内に、師匠の至時が「太陽や月の動きを正確に予測するには地球の大きさを正確に知る必要がある」と考えている事を知り、浅草から深川まで約4.2キロを歩測して、地球のサイズを計算した。

この時至時は「こんなに近い距離を測って、地球のサイズがわかるの？」と相手にされなかった。

せめて蝦夷地までは観測しないと信頼する結果は出ないのではないかと考えてたよ  
うで、忠敬は全国測定行脚を決意する。

1800年に幕府に測量の申請をだし、認められて第一次蝦夷地観測を開始した。

弟子6名と共に180日かけて歩いて測量、歩幅は69センチメートルで歩く訓練をしていた。根室まで3200キロメートルあった。

毎日歩いた歩数を数えて、夜は方向を三角関数を使って確認する一方星の位置から観測結果が正しいかを確認する毎日の粘り強い繰り返しであった。

この間の詳細は井上ひさしの「4万歩の男」に詳しい。



その結果を師匠に提出、この実績が認められ翌年伊豆半島から下北半島まで測量を行った。

次いで日本海側の山形県、秋田県、新潟県を毎年のように測量した。

幕府は当時正確な地図が欲しかった事もあり、しかもこの地図の正確さに驚いた幕府は全国に「忠敬が測量に行くから手助けするように」との連絡をまわして後押しした為測量は順調に進んだ。

1804年に初めて測量結果を地図として、幕府に提出した。1818年忠敬が74歳で無くなるまで続けられた。

3年後に「大日本沿海輿地地図」としてまとめられ美しく正確な手書きの彩色地図は「伊能図」とも呼ばれ、近代行政地図を作る際にも参考とされた。今も海外からその精度を称賛されている。

#### 4. 樹木希林

人生の後半になるに従い有名となり、特に無くなってからはそのキャラクターと考え方が光った。

グッドバイ地球の皆様！

樹木希林が2018/9/15に亡くなり、「グッドバイ地球の皆様！」と新聞にでました。希林さんの爽やかな別れのセリフでした。75歳でした。

このセリフは彼女が言ったものか、新聞が書いたものか定かではないが、彼女らしさを表現した死生観である。

これまでは富士フィルムのコマーシャルで見た程度でしたが、死後発表された言葉には新鮮な言葉を発見しました。



◆おごらず、人と比べず面白がって平気に生きればいい。

◆幸せな出来事も単純に良い事ばかりではない。ガンになった人生とならない人生、単純にどちらが良いかは言えない。

◆家の施工の時、工事の人にミスをした時は暫くそのままにして、そのミスを眺めてどんな状況でミスをしたかを考える。ミスが面白い結果になり、そのまま残しておくこともある。

◆女優でも仕事の現場には一人で切符を買って、電車で行きなさい。そうやって世の中の仕組みも知らなければいけない。

◆物作りは片方で壊してる。

◆どこにも善と悪がある事を受け入れて、たくましくなる。病が駄目で、健康が良いとするだけでは、つまらない人生になる。

◆仕事のために人生をやってる訳ではない。

◆大切なものは、着物でも洋服でもその命の果てるまで使い続ける。

◆「死ねば宇宙の塵芥。せめて美しく…」

彼女の日常生活や人生への考え方は進んでいるようである。それはどこから来ているかを考えると

①長年第一線の女優を続けた結果、常に色々な優秀な映画監督の人生観に日常触れてきたのが、考え方に深みを増したのだろう、

②美人女優に囲まれてふつうの顔で勝負するには相当の熟慮と覚悟が必要であった。

③晩年ガンに侵された事が、生きる事と死ぬことを深く考える結果となった。

鎌田医師との対談で、女優業をしているが、マネージャーがいないので、注文はファックスで受け、ギャラの交渉も自分一人です。そして現場には自分で運転していく。このスタイルは死ぬまで続いた。

樹木 希林は、日本の女優。東京出身。夫はロック歌手の内田裕也。間に娘・内田也哉子(本木雅弘夫人)がいる。夫の内田とは長く別居を続けていた。父は薩摩琵琶奏者である。

2020年8月5日 31期 上田ヤマト